

▼関東

音読と対話の会

【長野】穂苺 ふみ子(SBC)

「音読と対話の会」は、十数年前に私が関東民放クラブ長野支部の会員になった時には既に開催されていた、2カ月に一度のイベントです。各自が気に入った本を持ち寄り、オススメの箇所を音読していきます。自分では読まない本、出会わない本もここで紹介されると読みたくなります。紹介者も、声を出して読むことで、新たな気づき、発見があります。

今回は、8月の同会でとりあげられた7冊の本のタイトルと著者をご紹介します。皆様も機会があればぜひお読みください。

○倉田 治夫(TSB)紹介

『モーツアルトは「アマデウス」ではない』石井宏・著、集英社新書

○神波 潔(SBC)紹介

『在日』姜尚中著、集英社文庫

『バイファアに戻って 太陽の男たち』ガツサーン・カナファーニー著、河出文庫

○堤 保徳(NBS)紹介
『また会う日まで』池澤夏樹・

著、朝日新聞出版

○沼田 政春(SBC)紹介

『「赤とんぼ」わたしの心の一曲』狭間壮他・著、自費出版

○森本 俊子(SBC)紹介

『いつか死ぬ、それまで生きる わたしのお経』伊藤比呂美・著、朝日新聞出版

最後になりますが、この日、私が紹介した本の感想です。

○穂苺 ふみ子(SBC)紹介

『14 階段 検証 新潟少女9年 2カ月監禁事件』窪田順生・著、小学館

この事件が明るみに出たのは24年も前のことですが、今もザワザワと記憶に新しい、一人の少女の一生を狂わせる残酷極まりない事件でした。

被害女性は元気に暮らしているという記事を目にし、よかつたと安堵しつつ、本当にそうだろうか？ という疑問も拭えませんか？

本人のプライバシーが固く守られ、決して中核に立ち入ってはいけないうタブーな事件であることが、この事件の深刻さ、悲惨さを物語っているのだと感じました。

仕事は終わった！

楽しみはこれからだ!!

木村 寿行(EX)

表題は、長野支部が制作した支部紹介のパンフレットのキャッチコピーです。長野支部の会員増強対策として作られたもので、昨年の日本民放クラブの総会で長野支部 池内事務局長が紹介してくださいました。

とても印象に残るこのキャッチコピーは、ある著書のタイトルを参考にして考案したそうです。

パンフの文章は池内事務局長を中心に自分たちで作り、後は印刷会社にデザインや印刷をお願いし、最終的にはかなり安価に仕上げたとか。

このパンフを長野支部の会員に配布して仲間を募ってもらい、また、長野地区の放送局を訪ねて役員の皆さんにパンフを手渡し、直接、支部の説明・勧誘をしたそうです。

池内事務局長は「このキャッチコピーを気に入って頂けたなら自由に使ってください結構です」と話されていました。早速、関東民放クラブでもこのパンフを参考に同好会紹介チラシを作ってみま

した。冊子を作ったことがある大学時代の友人にデザインを依頼し、文字を大きく、写真を入れて見やすいものを作ると打ち合わせを重ねました。出来あがったチラシを使って、出身局のOB会で勧誘してくださいました中村こずえ理事からは、入会者があったとの嬉しい報告がありました。

皆さんの地区でもこのキャッチコピーを使った勧誘チラシを作ってみてはいかがでしょうか。



長野支部のパンフレット



関東支部のパンフレット